

がんばろう 南三陸町 復興第88号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター

南三陸町「復興祈念公園」一部開園

令和元年12月17日

- 祈りの丘
「海の軸」
荒島・椿島・神割を結ぶ
- 「山の軸」
保呂羽山・上山八幡神宮を結ぶ
- 「祈念の軸」
防災庁舎を結ぶ



「名簿安置の碑」メッセージ
いま、碧き海に祈る
愛するあなたに
安らかなれと
鈴木清美さん

1分間の黙祷から、南三陸町震災復興祈念公園の「名簿安置の碑」並びに「復興祈念のテラス」の除幕式が、小雨模様の中で開催された。

佐藤仁町長の式辞では、「平成の時代、最大の災害となりました。」「普通の日から千年に1度と言う災害を経験し3203日、平坦な道ではなく苦悩の日々がありました。」「様々な思いが胸に去来



テラスからは防災庁舎とさんさん商店街を望む

「復興祈念のテラス」メッセージ
小学1年生だったあの日、この目で見ただけは
まだ私の中に鮮明に生き続けている。
どうかこの町が、大好きだったあの日のように
活気と人々の笑顔であふれる町に
なりますように。 西條瑠奈さん

する。」「礎は亡くなった方々の元にある。」「町の未来を想像していただきたい。」と語った。

名簿の安置には、620名の亡くなった方と210名の不明者合計830名がおりますが、遺族の了解が得られた「804人」の犠牲者の名前が記された名簿が納められている。

三浦清人議会議長は「8年9ヵ月、当時の惨状が脳裏に浮かびます。」「追悼の場を1日も早く、手を合わせる場所をと、遺族の声に答える事ができました。」「全国の支援の方々のご意向に応え、後世に伝えていかなければならない。」と話した。

感謝状の贈呈では、一般社団法人全国優良石材の会が「津波記憶石プロジェクト」に取り組み、名簿安置の碑の整備に関し、石材や加



式典で表彰された三人

西條さんと鈴木さん



震災前の志津川市街地の街並み

工などを寄贈した。株式会社サンテックは、犠牲者名簿を安置する気密性に優れた収納庫を寄贈してくれた。

「記憶の広場・メモリアルレリーフ」失われたまちや人々の記憶を風化されることなく後世に伝えるため、東日本大震災発生時の志津川地区の地図を石版に刻んだレリーフを園路が交わる公園中心に配置し、記憶の広場とします。

「名簿安置の碑」への碑文・メッセージは応募作品の中から、南三陸町の鈴木清美さんが選ばれた。挨拶では「南三陸町に生きて63年が経ちました。」「碑文の碧は「普通の青ではなく、紺碧(こんぺき)の碧」を使った。」「多くの御霊は 私は海にいます。」「愛するあなたへの思いの中には、たまたま南三陸町に来ていて亡くなった48名の方々もおります。鈴木さんは震災語り部となり、来町して下さる皆様に町の大津波の姿と、防災意識の必要性を語りつないでいる。

西條瑠奈さんは、「復興祈念のテラス」のメッセージに、これからの南三陸町の未来への希望を綴った。挨拶の中で「この式典に立った時、複雑な気持ちがこみ上げてきます。」「と、小学1年生の時に被災し、幼いながらも一歩ずつ再建がされた自分の町の姿を見て、素直な気持ちを述べてくれた。

旧防災庁舎は、県での20年の所有となり今後どうするかが、町民と議会で議論がなされる。公園内の鉄骨の防災庁舎で、職員など43人が犠牲となり、復興祈念公園の整備のために3年前から立ち入り禁止となっている。今回の「築山」の完成により一部開園となり、被災した防災庁舎の屋上までもが近くで見える状況となった。

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

令和元年(2019年) 8月の出来事
~ 地元報道より ~

南三陸町

◆南三陸町生涯学習センターで、25日まで夏休み工作資料展が開かれている。夏休み中の子供たちのために図書館が毎年企画し、職員が手作りした約50点が展示されている。

◆30日、国道45号線沿いで南三陸署と気仙沼署が合同で「気仙沼・南三陸交通事故防止タッグ作戦」を展開し、安全運転を呼び掛けた。

◆1日、女川×南三陸キャッシュレスキャンペーンが始まった。月末までの1ヵ月間で、初日は南三陸さんさん商店街でPRキャンペーンが行われた。

◆南三陸町入谷桜葉沢の菅原民子さん(72)が少年補導栄誉金賞を受賞した。30年以上にわたり、少年補導員を務めた。南三陸署管内からは初めての受賞。

◆南三陸町歌津の直売所「みなさん館」が大幅にリニューアルし、「みなみさんりく発掘ミュー

ジウム」として、3日にオープンした。

◆南三陸町のミズダコ漁が不漁に見舞われている。7、8月は1年で最も水揚げが活発になる時期だが、数量・金額とも昨年をさらに下回る。

◆志津川高校からインターハイに出場する陸上女子棒高跳びの三浦真衣選手(3年)の走行会が、南三陸プラザで行われた。OB・OG・学校関係者・現役員ら約30人が出席した。

◆4日、歌津地区のハマレ歌津で、歌津夏祭りが開かれた。町内外からの家族連れなどでにぎわい、千発の打ち上げ花火がフィナーレを盛り上げた。

◆東日本大震災で被災した松原公園の復旧工事が進められていたが、遊具広場が完成した。陸上競技場(300メートルトラック)と野球場は9月の供用開始予定。

◆6日南三陸町を、渡辺博道復興大臣が訪れ、復興状況を視察した。昨年10月以来の2度目で、結の里と生涯学習センターも訪れた。

◆南三陸町と友好町を結んでいる山形県庄内町の小学生32人が参加し、南三陸町に7日から滞在し、地元小学生と交流した。

◆お盆を前に、南三陸町内の農家では仏壇や墓前に供えるキクの出荷がピークを迎えている。農家にとっては彼岸と並んで忙しい時期、出荷のピークは13日の盆入り。

◆南三陸町荒島・楽天パークに8日、木製メリーゴーランドが期間限定で登場した。自転車をこいで動かすもので、小学生の力でもこげるようになっている。

◆徳島県徳島市で、7月31日から開かれた全国少年消防クラブ交流大会で、志津川中学校少年防災クラブが総合2位に入った。

◆11日歌津田の浦漁港で「海の大運動会」が開かれた。今回で7回目となり、地域住民やボランティアら約200人が参加した。

◆2018年の観光客入り込込数が、17年の入り込込数を上回った。17年の入り込込数は約142万5千人で、18年は1万9千人の増加となった。

◆南三陸町内の小・中学校で、エアコン設置工事が本格化している。全体の完了は10月を見込んでいる。

◆「子どもの心ケアハウス」と適応指導教室「はまゆり教室」が、オーストラリア友好学習館(コアラ館)に移転した。個別の事情を抱えた子供たちにも配慮しながら対応でき、1戸建てなので人目を気にすることなく利用できる。